

インターフェロンフリー治療（再治療）に対する意見書

返信先医療機関及び担当医

(医療機関)

(担当医)

ふりがな 患者氏名		性 別	生年月日（年齢）	
		男 ・ 女	明・大・昭・平 年 月 日生（満 歳）	
住 所	郵便番号 電話番号 ()			

山口県肝炎治療特別促進事業事務取扱要領 認定基準（抜粋）

(3) インターフェロンフリー治療について

HCV-RNA 陽性のC型慢性肝炎（C型慢性肝炎若しくはChild-Pugh 分類AのC型代償性肝硬変又はChild-Pugh 分類B若しくはCのC型非代償性肝硬変）で、インターフェロンを含まない抗ウイルス治療を行う予定、または実施中の者のうち、肝がんの合併のないもの。

※1 上記については、C型慢性肝炎又はChild-Pugh 分類AのC型代償性肝硬変に対しては原則1回のみの助成とし、Child-Pugh 分類B又はCのC型非代償性肝硬変に対しては1回のみの助成とする。ただし、インターフェロンフリー治療歴のある者については、肝疾患診療連携拠点病院に常勤する日本肝臓学会肝臓専門医によってインターフェロンフリー治療薬を用いた再治療を行うことが適切であると判断される場合に限り、改めて助成の対象とすることができる。なお、再治療に前治療と同一の治療薬を用いる場合は、グレカプレビル・ビブレンタスビルの前治療8週、再治療12週とする療法に限る。また、2.（1）及びペグインターフェロン、リバビリン及びプロテアーゼ阻害薬による3剤併用療法に係る治療歴の有無を問わない。

※2 上記については、初回治療の場合、原則として日本肝臓学会肝臓専門医又は山口県が指定する肝炎研修会の受講を修了した日本消化器病学会消化器病専門医が「肝炎治療受給者証の交付申請に係る診断書」を作成すること。

※3 再治療の場合、C型慢性肝炎又はChild-Pugh 分類AのC型代償性肝硬変については、肝疾患診療連携拠点病院に常勤する日本肝臓学会肝臓専門医の判断を踏まえた上で、原則として日本肝臓学会肝臓専門医又は山口県が指定する肝炎研修会の受講を修了した日本消化器病学会消化器病専門医が、Child-Pugh 分類B又はCのC型非代償性肝硬変については、肝疾患診療連携拠点病院に常勤する日本肝臓学会肝臓専門医が「肝炎治療受給者証の交付申請に係る診断書」を作成すること。

1 本意見書を記載する医師は、以下の項目を全て満たしている必要があります（該当する項目をチェックする）。

- ☐ 上記の山口県肝炎治療特別促進事業事務取扱要領における認定基準を確認した。
- ☐ 日本肝臓学会のC型肝炎治療ガイドラインを精読した。
- ☐ ウイルス性肝炎の治療に十分な知識・経験を持っている。

2 該当する意見にチェックの上返信して下さい。

☐ インターフェロンフリー治療による再治療は、適切である。

（推奨する治療： ）

☐ インターフェロンフリー治療による再治療は、適切ではない。

記載年月日 年 月 日

肝疾患診療連携拠点病院名及び所在地

本意見を述べた日本肝臓学会肝臓専門医の氏名

(注) 1 診断書の有効期間は、記載日から起算して3か月以内です。

2 本意見書は肝疾患診療連携拠点病院に常勤する日本肝臓学会肝臓専門医が記載する必要があります。